

意志ある学びー未来教育 [資料 S]

鈴木 敏恵 シンクタンク未来教育ビジョン代表
一級建築士 (Architect/設計思想/教育クリエイター)
s-toshie@ca2.so-net.ne.jp

情報力 ➡ 思考力 ➡ 判断力 ➡ 表現力 ➡ 行動力

- 課題解決の思考プロセスとコーチング
- 活用例

課題解決の思考プロセス

図1 課題発見の手順



図2) 課題の要因を考える



2') 主要因を絞り込む



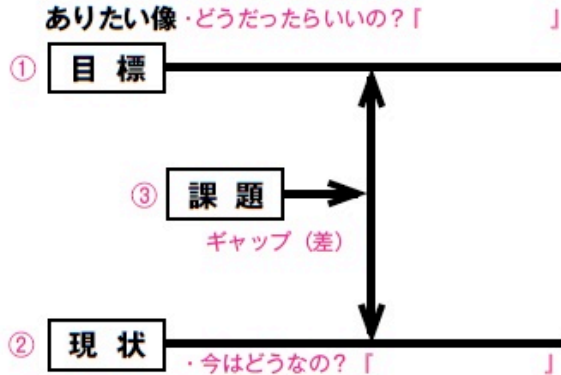
図3) 課題解決策の思考プロセス



図3) 現実への具体的な行動提案をする

<課題解決の思考プロセスとコーチング>

図1. 課題とは何か

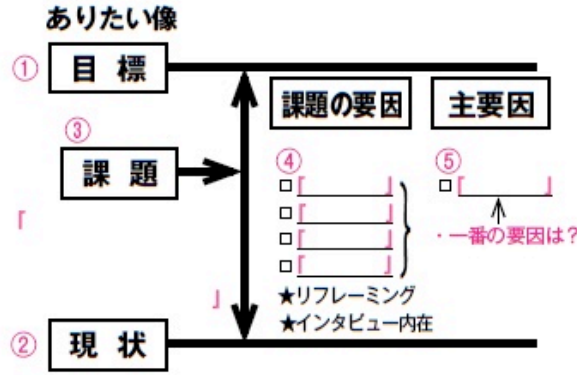


思考 “課題”とは、本来あるべき状態ではないので、“なんとか解決したい!”というもの。

課題とは「ありたい状態」と「現状」とのギャップ（差）にある。だから、自分で課題が設定できないときは、

- ①ありたい像（願い or 数値）を問う。
↓ C「どうだったらいいの？」
- ②現状をコーチングする。
C「今はどうなの？（今、それはどうなの？）」
- ③C「課題はなに？」

図2. 要因を考える



思考 なぜそれは起こるのか → 物事には必ず原因があるんだ！

- ・よく見る、観察する
- ・推察する
- ・類推する
- ・事例を調べる

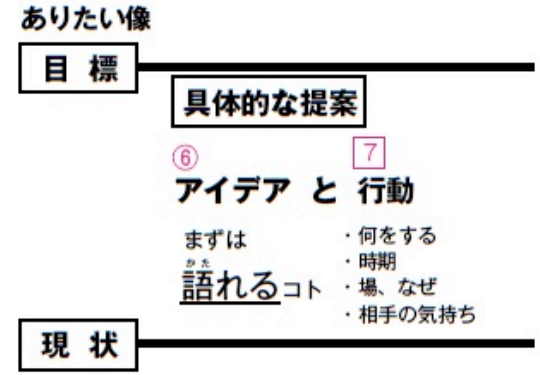
- ・考えられる原因は？
- ・ほかには？

④C「考えられる理由をどんどん書き出してみよう」

思考 書き出す → 顕在化
モレはないか
ダブリはないか
ほかはないか確認できる

俯瞰できるようにする。

図3. 課題解決する



- ④こそすべて！ここで差が出る！
 - ・見えないものを見る力。情報
 - ・「見る」はイコール「情報獲得」なり！
 - ・細かい所まで目を離さず、定点観測。
 - ・違和感：本来あるべき状態と違うを発見。
 - ・比較、相違、照らし合わせる。

- ⑤要因を選び出す。
C「これが一番の要因だというのは？」
- ⑥C「その要因をとり除くにはどうしたらいい？」

S アイデア（着想）全体像が描ける
思考 現状を変えるのだから現実を知ってないといけない

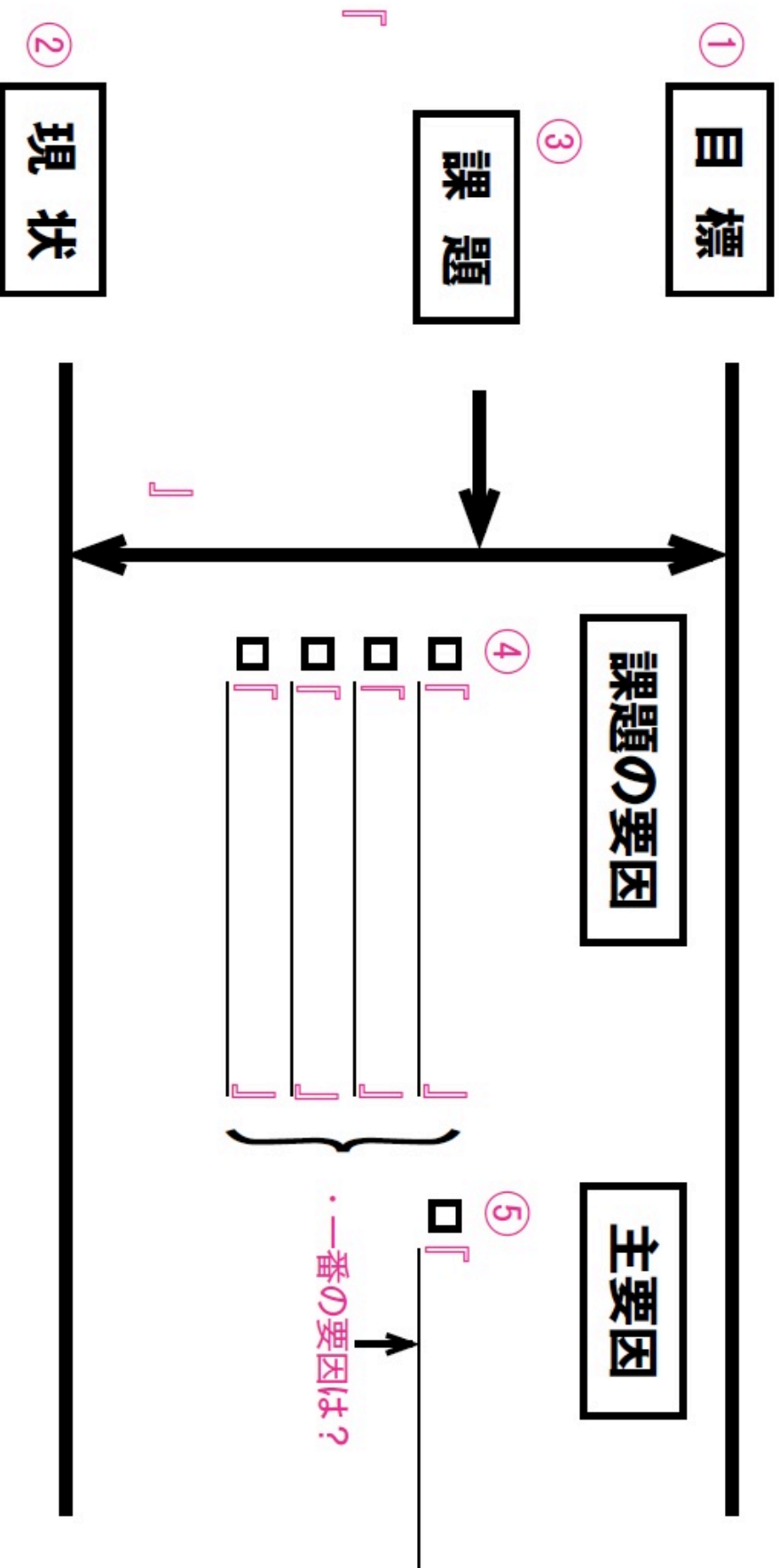
思考 ストーリー、映像、その人の頭の中にあるものをきかせてもらう。「登場人物、背景、大道具」

- ⑦C「具体的にどんなふうに行ったらうまくいく？」
いつ—いつやったら一番効果上げる？
どこで、だれが、どんなふう、何から始める、準備は？

<課題解決の思考プロセスとコーチング>

図2. 要因を考える

ありたい像



出版予定の新刊原稿のため一切の無断転載・翻訳等を禁ず。

©2015 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

課題の主要因を絞り込む手順

図 A 課題を発見する

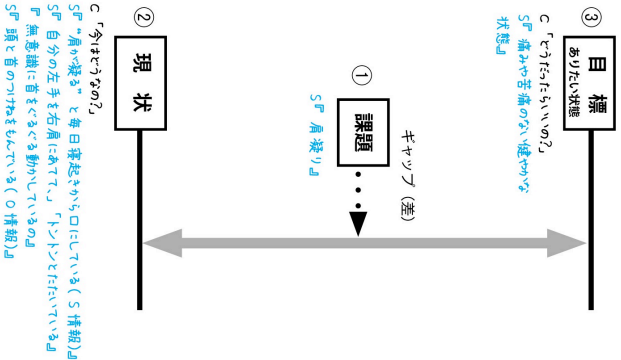


図 B 課題の要因をあげる

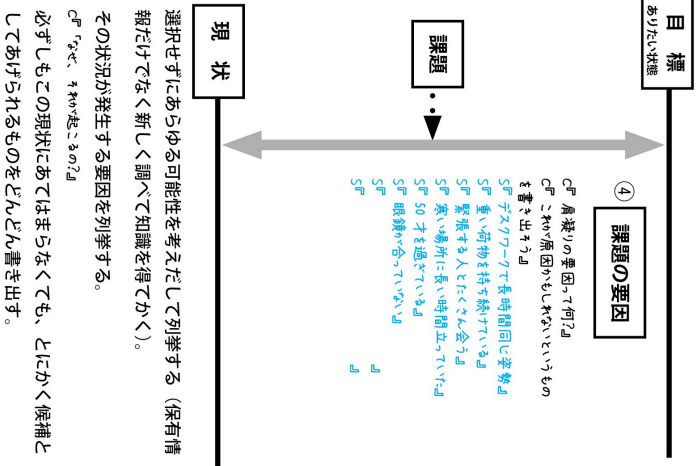


図 C 主要因を絞り込む

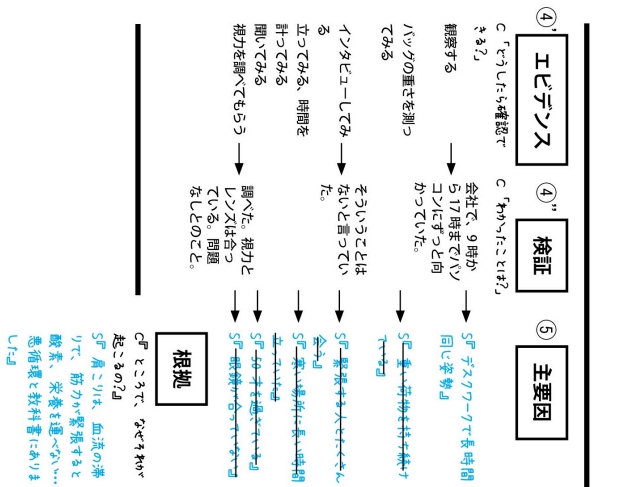


図 D 課題解決へ

